

IgE				1509000	
				担当部署	
IgE				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→免疫・自己抗体→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			特記事項なし		
検査受付時間			8 : 15～16 : 00		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		358IU/mL 以下 IgE-ラテックス「生研」添付文書			
臨床判断値		設定なし			
基準値					単位 IU/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	358	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		アレルギー患者の血清を健常人の皮膚に注射して、その後同部位に原因物質の抽出液を注射すると即時型の発赤反応が惹起される。 この原因となる可溶性特異因子として 1966 年に石坂らによって同定されたのが免疫グロブリン E(IgE)である。 先進国を中心に、アレルギー疾患の有病率は年々増加の一途をたどっている。 我が国でも、国民の 1/3 がなんらかのアレルギーを有するとされ血清 IgE の測定はアレルギー疾患の基本的な検査として頻用されている。 アレルギーは家族集積性があり、IgE 抗体産生亢進と組織反応性亢進の両方あるいはいずれかを特徴とする遺伝的素因が関与している。 これをアトピー素因と呼び、IgE 高値はアトピー素因の存在を示唆する。 疾患の診断・経過観察に利用されているが、個々の臨床情報と対比して解釈する必要がある。 日本臨床第 7 版 27,2009			